

(様式3)

5 学校アクションプラン

令和6年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒の実態に対応した基礎学力の定着と自主的に学習に取り組む態度の育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力（計算力、文章読解力など）が不足している生徒が増えている。 家庭学習の状況は、毎日学習する生徒が全校生徒の約61.5%（2月調査）と少ない。 工業高校で取得可能な資格検定について、生徒が自ら積極的に取り組むよう指導しているが、多様な生徒への対応に苦慮している。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日学習をする生徒が70%以上 ○各学科で主たる資格検定を設定し重点的に指導することで「やればできる」、「もっとやろう」という意識を高め、生徒一人あたりの資格検定受検回数の増加を図る。
方策	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で復習ドリルや問題集を行い、基礎学力の確実な定着を図る。また、朝学習と連携した夏季・冬季休業中の課題やワークに取り組みせ、確認テストや宿題テスト等で学習意欲の喚起に向けた指導の工夫・充実を図る。 将来の進路や得意分野の伸長のために、生徒自身で資格取得への目標を立て、学習の計画を立てて取り組むことで、授業以外の学習時間を有効に活用できるように工夫する。 〈主たる資格検定〉 <ul style="list-style-type: none"> 機械科・・・1年次の計算技術検定、情報技術検定、危険物取扱者三種 電気科・・・第2種電気工事士（全員取得）、第1種電気工事士、2級電気工事施工管理技術検定 電子科・・・情報技術検定、パソコン利用技術検定、工事担任者第二級デジタル通信 ICT機器を積極的に利活用し、授業における指導内容・方法の研究をすすめ、生徒の学力向上や生徒の主体的な学びを育む。タブレット端末を活用した授業展開や朝学習・資格検定の学習に向けた効果的な利用法を推進する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった)

令和6年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	問題や困難を抱える生徒の把握と支援体制の確立
現状	<ul style="list-style-type: none"> 多様な悩みを抱えて授業や学校生活に集中できないなど問題を抱える生徒が散見され、長期欠席をする生徒が少なからずいる。 基本的な生活習慣の乱れが学習活動に悪影響を及ぼしている生徒、体調不良を訴えて欠席する生徒が少なからずいる。 軽傷ではあるが、不注意から交通事項に遭う生徒が少なからずいる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 長欠者に対する適切で丁寧な指導・支援を行うとともに、問題を抱える生徒に対応した適切な環境づくりに取り組む。 交通事故数ゼロを目標とする。
方策	<ul style="list-style-type: none"> 面談を充実させ、生徒の様子・変化を見逃さず、生徒理解に努める。また、生徒に寄り添った指導方法を強化する。 生徒情報を共有する機会を設け、必要に応じてケース会議を行うなどし、組織として対応する体制を強化する。 保護者との報告・連絡・相談を密にし、家庭との協力体制を強化する。 SCやSSW、教育センターなど外部機関の専門家を積極的に活用する体制を強化する。 学業を中心とした生活習慣を確立させるために、各科や学年、保健厚生部等と連携した指導体制を強化する。 交通安全指導や交通安全教室、ホームルームの時間を活用し、交通事故防止に向けた指導を強化する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった)

令和6年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援
重点課題	学年、科と連携した進路指導の充実および自己理解を通じた進路支援
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料やエネルギー価格の高騰やヨーロッパでの戦争による輸出入のリスクなどのマイナス要因はあるが、若年労働者の慢性的な人手不足により企業の求人は増加している。 ・ 基礎学力やコミュニケーション能力が不足な生徒がいる。
達成目標	年度内進路決定 100%
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業との積極的な情報交換により、企業のニーズを捉え生徒・学年に伝え生徒の就職活動に活かす。 ・ 進路に悩む生徒との面談を実施し、進路指導の立場からアドバイスする。 ・ 基礎学力やコミュニケーション能力の不足が心配される生徒を早期に把握し、学年、科との連携の下に本人の希望や適性に応じた進路先の確保・開拓に努める。就労困難な生徒の場合はハローワーク等の専門機関と連携し、適切な進路決定を目指す。 ・ 職業適性検査や自己分析の実施と就職スタートブック（労働局）の活用。 ・ 面接指導の充実により、面接試験だけでなく就労意識の向上を目指す。 ・ 進路の手引きを全学年に配布し、生徒と保護者に進路決定の流れを知ってもらう。 ・ 校外学習や工場見学、インターンシップ、応募前見学、オープンキャンパスを通じて企業や学校を知り、進路決定するように指導する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった)

令和6年度 砺波工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動
重点課題	自発的・主体的活動の促進
現状	<p>小中学校での経験がコロナ禍で多くの活動が規制された現状から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自発的に問題解決のための行動力を身につけている生徒が少ないように感じる。 ・ 生徒は指示に従った行動をとれるが、自発的に取り組める生徒が少なく、その中でも主体的に取り組める生徒がさらに少ない。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事「体育大会」と「鷹工展」において、自発的・自主的な取組状況で「取り組んだ」及び「やや取り組んだ」が80%以上、また、満足度で「満足」または「ほぼ満足」が90%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画等に生徒会をはじめ生徒が関わることができるようにする。 ・ 生徒会活動、学校行事等でリーダー活動を多くの生徒が経験できるよう、 <ol style="list-style-type: none"> ① 役割分担の設定し、役割を遂行するために自ら考えさせ、行動をとる機会を増やす。 ② 準備期間を増やす。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった)